令和7年度　能美市立福岡小学校　学校評価【最終評価】

重点目標（めざす姿）		重点目標及び具体的方策	主担当	【評価の根拠】 達成度判断基準	2学期の取組状況	中間	最終	今後の改善策 （いつ・誰が・何を・どんなふうに・めざす子どもの姿）
1	組織的な学校運営	❶〈安心・安全な学校生活・危機管理〉 児童が安心して明るく元気に学校生活を送れるよう、物心両面における安全管理と危機管理に努め、いじめ・不登校等の未然防止をはじめ、課題に対して組織的に迅速・適切に対応する。	教頭	【児童アンケート①】 ・学校は楽しい。 【保護者アンケート①】 ・お子さんは、楽しく学校へ通っている。 【教職員アンケート①】 ・いじめや不登校等の課題に、組織として迅速・適切に対応している。 A：＋評価90%以上B：80%～C：70%～D：70%未満	【児童①96.1%→94.5%】【保護者①96%→95.9%】【教職員①100%→100%】 引き続き、全職員が素早く報告・連絡・相談の体制を継続し、トラブルの対応を迅速に行うことができた。保護者への連絡・面談、専門機関との連携と、児童が安心して学校生活を過ごせるよう努めることができた。常に情報や変化に対して敏感に気づけるようにし、全職員が教育活動にあたっている。	A	A	今後も全教職員で、児童が安心して明るく学校生活を送れるよう、児童のかすな変化を見逃さず、早期発見・早期対応に心掛け、複数での組織的な対応も継続していく。同様に、危機管理の徹底も継続し、ヒヤリハット事例を見逃さず、全教職員で情報共有し、迅速かつ組織的に対応していく。
		❷〈組織的な教育活動の推進〉 学校運営の状況や課題及び学力の傾向や課題について、全職員が共有し、組織的・計画的に取り組む。	教務	【教職員アンケート②】 ・「学校経営ビジョン」具現化のための各自の役割を認識し、組織的・計画的に実践し、検証を経て改善している。 A：＋評価90%以上B：80%C：70%～D：70%未満	【教職員②100%→100%】 全職員で、カリキュラムマネジメント研修を行い、PDCAサイクルを回しながら学校経営ビジョンを具現化しようという意識づけを図めて行う。それぞれの部会で研修会を設け、全職員で共通理解を図り、これからの具体的な方策や検証の仕方について確認する。職員終礼で、それぞれの部会で行う取り組みについて声掛けや確認を行う。	A	A	2学期末の研修で、それぞれの取り組みを振り返った、課題はあるものの、各部会が互いに影響し合い、成果となって現れている。今後も引き続き、職員会議や研修会、終礼などで、目的や検証方法について確認を行う。また、月に一度、学年会の時間を設け、様々な課題を話し合う場を確保することで、組織的に教育活動を推進していく。
		❸〈業務改善〉 教職員が常に時間管理意識やワーク・ライフバランス意識を保持し、業務のスリム化・効率化・平準化を図る。	教頭	【教職員実態調査】 ・時間外勤務時間の平均が45h以内の割合。 A：平均40h以内　B：平均45h以内　C：平均45h以上	【教職員実態調査平均40以内】（非常勤講師・再任用以外の教職員） 2学期の時間外勤務が45時間を超過する教職員が固定して含いている。小規模校のため、一人当たりの業務量が多くなってしまう現状がある。スクールサポートスタッフに事務的なことは引き受けてもらったり、校務DX化を進めることで効率化を図っていく。	A	A	今後も教務やGIGA担当とともに、校務DXを推進していく、また、常に業務内容の見直しを模索しながら、学校全体で今後につなげるスリム化・効率化を考えながら、平準化を進めていく、業務の優先順位をつけるよう、管理職としても声かけをしていく。そして働き甲斐のある職場環境づくりをめざしていく。
2	知（確かな学力の育成）	❶〈基礎基本の育成〉 学習規律の確立と主体的な家庭学習により、基礎的知識・技能の定着を図る。	教務	【単元末テスト】 ・国語・算数の単元末テスト（知識・技能）の平均点 A：90点～　B：80点～　C：70点～　D：70点未満	【単元末テスト国語 88.2点→87.9点　算数　90.6点→92.1点】 検証用の「テスト結果」や「教師の意識アンケート」の結果を全職員で共有した上で、実践したこと、その成果と課題について話し合う。それを踏まえて、2学期の重点取り組みについて低中高部会で話し合い、学校として大事にしていくことを決める。主体的に学ぶ児童のさらなる育成を目指して、授業を見合う時間を確け、教師も児童もお互いに学び合うことができるようにする。	B	B	単元末テストの結果と2学期の授業実践の成果と課題を全職員で共有した。知識理解においては、定着率は約9割あるが、それを活用し表現するところに課題がみられる。今後も単元の終末に、ノート・Chromebookなどの多様なツールから児童が自ら選択し、学びの軌跡を表現する場を意図的に設定し、学びの自覚化を促す。
		❷〈主体的に学び目標達成する授業づくり〉 算数科を中心に、ねらいを明確にし見方・考え方を働かせた授業づくりの研究を推進することで、その単元でつけたい力を確実につけ、意欲的に思考し伝え合える児童の育成を図る。	研究	【児童アンケート②③】 ・算数の授業が分かる。 ・友達と意見を伝え合ったり一緒に考えたりすることのよさを感じている。 A：＋評価90%以上　B：80%～　C：70%～D：70%未満 【単元末テスト】 ・算数の単元末テスト（思・判・表）の平均点 A：90点～　B：80点～　C：70点～　D：70点未満	【児童②91%→89%　③92.7%→95%】【活用力テスト80.6点→83.1点】 2学期は、6年生の授業を他学年が参観する授業交流や教師間士の授業参観を行い、授業力の向上を目指してきた。教師が単元の見方・考え方を明確にもち、それをどう働かせるかを主立てを考え実践した。思考力・判断力・表現力等の向上については、教師と児童で考え方や学び方を確認し、授業を進めてきた。単元後の目指す姿や単元を通した着目ポイントを教師と児童で共有し、思考したことを相手に説明する単元末のふり返りにも取り組んだ。	B	B	・引き続き単元の見方・考え方を働かせるための手立てを考え、実践を重ねていく、実践を交流し、様々な手立てを蓄積していく。 ・その単元でつけたい力を確実につけるために、自分の学びをアウトプットする、スライドや新聞等の方法で単元後のまとめを行い、理解を深める、また、上学年に適用題や単元のポイントを伝えに行く機会を設ける。算数用語を正しく使い、分かりやすく伝えることを児童も教師も意識する。
		❸〈GIGAスクール構想の推進〉 GIGA校内研修推進リーダーを中心に、研修を行うことで、全教員が「児童が一人一台端末を効果的に活用して学ぶ授業」の実践力をつける。	GIGA校内研修推進リーダー	【児童アンケート④】 ・授業で、ICT機器を使って学ぶよさを感じている。 【教職員アンケート⑤】 ・研修で学んだことをいかして、ICTを効果的に活用した授業を行っている。 A：＋評価90%以上　B：80%～C：70%～D：70%未満	【児童④95%→95.6%】【教職員⑤91.6%→100%】 児童・教員ともに授業中に積極的に使っていく姿が見られた。教員には新しいアプリの紹介やスライドやスプレットシートの活用方法を交流することで、ICTを使う場が増えた。児童には、今まで使ってきたものを自分達で選択して使っていく姿が見られた。	A	A	引き続き児童や教員がICTを活用した授業を行い、児童に情報活用力や表現力がつくように有効的に使っていきたい、児童にはICTを使う良さを感じてもらうとともに、ICTの危険性を同時に指導していく必要もある。今後も、校内研修会の中で、新しいアプリの実践交流を行い、ICT活用スキルのボトムアップを図る。
3	徳（豊かな心の育成）	❶〈積極的な生徒指導〉 共感的人間関係を育む言動を豊かにする積極的な生徒指導の取組を実践し、あたたかな人間関係でつながる学級経営を行っている。	生徒指導	【教職員アンケート⑧】 ・「生徒指導の4つの視点を生かす言葉かけ」を授業や行事の中で意図的に使うようにしている。 A：＋評価90%以上　B：80%～　C：70%～D：70%未満	【教職員⑧　91.7%→100%】 2学期は積極的な生徒指導の取り組みとして、「キラリ言葉大作戦」を全校で行った。児童は授業中に温かい言葉を率先して使うことができた。言葉や使われてどうだったかを付箋に記入し掲示することで、児童同士の共感的な人間関係を育むことができた。また、授業中に教師が4の言葉を価値づけすることで、全学級で積極的な生徒指導が推進された。	A	A	3学期も引き続き、教師が生徒指導4つの視点を意識しながら、児童の積極性や共感的人間関係が育める取り組みを実践していく。児童が次学年の姿を想像しながら自分の成長を感じられるようにすることができた。言葉の使い方だけでなく、友達との相互評価をすることや、教師からの言動の価値づけを行っていく。生徒指導部より、生徒指導4つの視点を意識した授業づくりの上でレベルアップ大作戦」を提案し、児童一人一人ができるようになりたい行動を考え、実行できるようにする。そして、3学期も学校全体で積極的な生徒指導を推進する。
		❷〈主体性・協働性の育成〉 学校生活全般において、主体的に取り組む姿の推進や互いを大切にした協働性を高める実践を通して、「より良い学級・学校を自分たちでつくる」という意識を高める。	生徒指導	【児童アンケート⑤⑥⑦】 ・友達と協力して活動ができた。 ・あいさつができた。 ・進んで行事や授業などの活動に取り組むことができた。 A：＋評価90%以上　B：80%以上　C：70%以上　D：70%未満	【 児童⑤ 96.1% → 97.3%　⑥ 98.9% → 96.7%　⑦ 96.7% → 95.6%】 後期の児童会目標も前期を引き継ぎ、「できた笑顔、みんなで笑顔、ありがとうの笑顔」とした。代表議会で話し合って決めた。全校共通実践を児童主体で行った。また、その振り返りを各学級で行うことで、児童が自分たちで良い点・改善点を考えることができた。 　運動会や入権集会などの行事では、児童が司会進行を務めたり内容を考えたりすることで主体性を育むことができた。また、各委員会では、1委員会「プランを計画・実行しており、児童が自分たちの学校を自分たちでより良くしようと行動することができた。	A	A	児童会の児童より「みんなで笑顔」「ありがとうの笑顔」をさらに増やしていきたいという反省が出ている。この2点に絞った取り組みを児童主体で取り組んだり、3~5の実顔の集計表を掲示したりして、児童全体の主体性・協働性を育んでいく。 　この3学期という時期に合わせ、1学年下の児童にどんな学本を残すのかを具体的に決め、授業やねみ時間の姿で表現する、そうすることで、児童自身の主体性・協働性を高めるとともに、下学年は上学年の姿を目標とし向上心をもつことができるようにしたい。
		❸〈自己有用感の育成〉 授業や様々な行事・活動において、児童に成長しようとする意欲を持たせ、自己評価・相互評価を通し自己有用感を高める活動を実践している。	生徒指導	【教職員アンケート⑦】 ・児童が学校・学級や友達の役に立っていると感じられる活動を意図的に行っている。 A：＋評価90%以上　B：80%～　C：70%～D：70%未満	【教職員⑦　100%】 運動会では、全校で互いを認め合うメッセージカードの記入を行った。学級内の友達や異学年に対して頑張りを認めるメッセージを書くことで、どの子も自分の頑張りを認めることができた。 入権集会では、全校で人権について考えた後、人権の花を咲かせるために、児童会目標の3つの笑顔のメッセージを書いた。児童の自己有用感を高めることができた。	A	A	3学期に実施される6年生を送る会などの行事等を活用し、学級内だけではなく学年を越えた認め合い活動を実践する。また、教師が生徒指導4つの視点を意識した声掛けを行うことで、児童が自分の頑張りを認められるようにする。そして、児童の自己有用感の育成を図っていく。 積極的な生徒指導の取り組みでも、授業中に児童が自分の成長を感じられ、学級全体で成長を認め合っていく活動を担任が意図的に実行できるように授業する。
4	体（健やかな身体の育成）	❶〈体力・運動能力の向上〉 児童が主体的に取り組む体育科の授業や体育的行事の工夫・実施に努める。	保健主事	【体育カード】 ・重点種目（鉄棒・持久走）において各学年の目標を達成することができた。 【児童アンケート⑨】 ・体育の授業が好きだ。 【教職員アンケート⑨】 ・児童が意欲をもって取り組めるよう体育の授業を工夫している。 A：＋評価90%以上　B：80%～　C：70%～D：70%未満	【児童⑨　91%→90%】【教職員⑨　90.9%→100%】【体育カード 99.4%】 　持久走大会に向けて長休みに全校児童がコースを周回する時間を設け、持久力向上を図った。走った周数分、カードに色を塗ったりICTを活用してグラフに記録したりする取り組みを行うことで、成長を実感しながら練習に参加できるようにした。 　校内研修を行い、スポチャレ石川の新種目のルールや留意点について職員間で共有した。短時間に集中して取り組める運動を授業冒頭に取り入れ、運動の質的・量的向上を図った。	B	A	運動の得手不得手に関わらず、児童が楽しみながら活動に参加できるような授業の工夫に学校全体で取り組んだが、一部の児童はまだ体育の授業に苦手意識を感じていることが分かった。引き続き児童が自身の課題を柔軟に捉え克服し、自の成長を実感できるような授業を目指すために、3学期はなわとびの取り組みを通して各個人のめあてを持たせ達成感を持たせたい。
		❷〈命を守る取り組みの推進〉 けが・熱中症予防等の指導を通して、自らの健康や命を守る判断力を育てる。	保健体育部	【児童アンケート⑩】 ・安全な生活を送るための正しい行動を自分で考えできている。 【教職員アンケート⑩】 ・安全な生活の推進を養護教諭や保健委員会等と連携して取り組んでいる。 A：＋評価90%以上B：80%～C：70%～D：70%未満	【児童⑩92.2%→91.2%】【教職員⑩92.3%→100%】 暑い時期での運動会練習が続いたが、教職員の声掛けと共に児童自らも熱中症予防のために率先して水分補給に心がけ小水分を準備して練習に参加するなど命を守るための主体的な行動ができるようになった。廊下を走らないために教職員全体で児童を見守ることができた。体育館から教室棟への渡り廊下は特に走って移動する児童が多いのでカラーコーンを置くなどして対処した。	A	A	児童・教職員共にA評価と自分の健康や命は自分自身で守っていかなければならないという意識の高さが感じられた。今後も学校全体で安全に過ごせるよう、季節に応じた健康を守るための取り組みや廊下を走らないための方策などを児童と共に考えていきたい。
		❸〈生活習慣の確立と心の調整力の育成〉 自らの心身の健康や生活習慣に関心を持ち、進んでよりよい生活習慣づくりを推進する。また、地域・保護者と連携して、家庭学習や生活のふりかえりシート等を利用し、生活リズムの確立に向けて取り組む。	保健体育部	【家庭学習がんばり週間カード】 ・家庭学習がんばりカード ・各家庭で決めたメディアルールの達成率 A：＋評価90%以上　B：80%～C：70%～D：70%未満	【家庭学習がんばり週間カード　88.6%→89.0%　】 中間評価より職増ながら達成率が上がった。2学期に行われた歩行被害防止講座の「メディアとの上手な付き合い方」で自分事として考える機会を設け、保護者共に講演を聞けたことがよかった。	B	B	メディアに関しては、各家庭での生活時間の使い方にも大きく関わっていると考えられる。引き続き利用における メリット、デメリットの両面を伝えていくと共に3学期に予定している学級懇談会で各家庭の実態を交流し、児童の発達段階に合った使い方を保護者と共に考えていきたい。
5	家庭・地域との連携	❶〈ふるさと愛の醸成〉 様々な体験を通して、能美市や根上の自然や歴史・産業・文化に触れ、ふるさとを愛する心と態度を養う。	教頭	【児童アンケート⑪】 ・地域のことを調べたり学んだりして、能美市や根上のことがわかったり良さを発見したりできた。 【教職員アンケート⑪】 ・学校運営協議会や地域の方と協力して、地域をいかす授業を行っている。 A：＋評価90%以上　B：80%～C：70%～D：70%未満	【児童⑪　87.1%→91.2%】【教職員⑪ 83.3%→100%】 教職員が計画的に地域と連携した活動を構築し、児童が主体的に関わる学習機会をさらに充実させていくことができた。児童が直接地域の方と関わることで、児童は地域の人やや物り を実感し、教職員も地域と連携したふるさと教育の意義を再認識することができている。	B	A	今後も継続して地域の方との協働を深め、話を聞いたり共に活動したりしていく。教職員も子どもと共に地域の方から学ぶ姿勢をもちながら授業を工夫する。授業や活動を通して、児童がふるさとへの思いや理解を深め、その思いを自分なりの言葉で表現できるようにする。そして、地域に親しみをもち関わろうとする子どもの姿をめざし、主体的に関わることができる子を育成していく。
		❷〈コミュニティスクールの推進〉 学校と地域・家庭が協働し、子どもを地域で支え育むため、学校運営協議会を充実させ、「開かれた学校」づくりを進める。	教頭	【保護者アンケート⑨】 ・PTAの取組や地域行事にできるだけ参加している。 【学校運営協議会委員の意見】 ・学校と地域が目標を共有して、連携・協働して活動している。 A：＋評価90%以上　B：80%～　C：70%～D：70%未満	【保護者⑨ 88.3%→91.1%】 学校と地域、家庭が一体となって子どもを地域で支え育む体制づくりを進めることができた。学校と地域、家庭の連携強化が着実に進展している。また、ぼっかぽかタイムやの読み聞かせなどにも多くの児童が参加し、地域の方とのコミュニケーションを図ることができている。	B	A	今後も学校運営協議会員の方や地域の方とのつながりを大切にし、学校と地域が協働的に活動できるようコミュニケーションを図りながら、「福岡っ子」を育成していくよう努める。 また、学校ホームページ等で教育活動の様子を保護者や地域の方へ発信していく。教職員も積極的に地域との関わりが持てるような教育活動の工夫をしていく。